

KUNST ARZT では、菊池詩織の初個展を開催します。

菊池詩織は、「野生」「本能」についての考察を实践するアーティストです。

卒業制作作品でもある、ベッドに全裸で四つん這いのセルフポートレートに自身の髪を植毛した「galloping woman (2023)」は、「野生化した女性」をこれ以上ない強度で突き付けました。

本展では、ギャラリーに食卓、ベッドを配置して人間の生活空間に見立て、そこに植木鉢に入れられた植物、オムツをさせられた鶏を持ち込み、作家は会期中、共に過ごします。

(KUNST ARZT 岡本光博)



galloping woman

2023

インクジェットプリント、頭髮、アクリル

1800×1200×100 mm

髪という「境界」に位置する現象について考え、新たな身体の獲得を目的とし、セルフポートレートに自身の髪を植毛した作品。

経歴

2000 熊本県阿蘇市生まれ

2023 京都芸術大学美術工芸学科卒業

展覧会

2022 VIC 同時代ギャラリー

2022 旅と文学 メディアショップ

2022 写真は変成する 11 BLeedInG eDgE on PoST/pHot0gRapHy ギャルリオーブ

2023 写真は変成する 111 インタープレイ 相互に作用すること on PoST/pHot0gRapHy ギャルリオーブ

2024年9月17日(土)から22日(日)

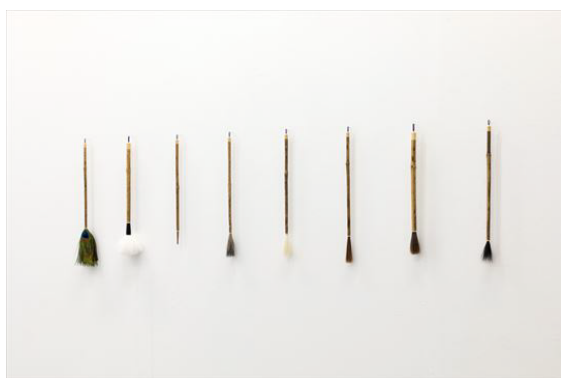
12:00から18:00

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町155-7 2F

アーティストステートメント+ 展覧会コンセプト

植木鉢に入れられた木と、おむつを履かされた鶏をインストールし、人間の生活空間をつくります。家の中で人間は、植物は植木鉢に入れることを、動物は首輪（リードも含め）や、ゲージ、おむつを履くことを強いています。人の生活の中に”当たり前”に組み込まれた多種への暴力性に注目し、ギャラリーという作品を鑑賞する場所で、生活空間を展開し、他種と生きていくことについて考えます。



8種類の筆

2023

孔雀、白鳥、駒、狸、猫、馬、猿、人間
人間特有の「書く」という文化には昔からあらゆる植物や動物が利用されてきた。その中に人毛で作られた筆を等しく展示する。



deep forest

2022

インクジェットプリント サイズ: 可変
狼犬が群れで生きる環境の中で生活を共にし、異質な私たちがどのように己を守り、己を開き、コミュニケーションを築いていくのか模索する。



familiar

2021

燃やされたカラープリント サイズ: 275×220×35
父と母と自身の幼少期の写真を選び、記憶に深く根ざす家父長制からのトラウマに対し、フォトセラピーを用いた作品である。向かい合った二枚の写真から改めて家族について考える。